

テーマ：『 学校林を里山林へ、その再生の試み』

横須賀市立 坂本中学校

Tel. 046-822-2385

担当者： 長谷川 隆



作成した立体模型

屋上より見た学校林（模型の方向とほぼ同じ）

■実践内容： 取り組みのはじめに元横須賀市立博物館学芸員である大場信義先生に視察していただき、『都会の中に、特に学校の敷地の中にこのような場所が残っていることは大変貴重なものだ。』という評価をいただいた。

その後、どのようにこの学校林を再生していくか再検討を行った。その結果、学校林再生の方向性をどのようにするかということについて新たな問題が生じた。具体的には、学校林を作る樹種として潜在的植生に沿った樹種を育成し整備を進めるものと、代償植生である里山林として整備をすすめるものどちらを目指すかということで、この方向性の決定にはより詳細な学校林などの調査が必要となった。（今現在は、この地域の潜在植生に近い樹種構成で、里山林などの整備を考えるとこれまでの樹種の伐採のなどが必要となる。）

そこで、まず、学校に保存されていた学校林の250分の1の地形図を元に精密な立体模型作りを行い、学校林の現状の把握をすることとした。また、植物の調査、昆虫の調査、観察のため野鳥を呼ぶような場所作りなどの取り組みを行った。

■実践成果： 現状では倒木や朽ち木、下草の繁茂などにより容易には学校林内へ入ることではできないような状況なので外観からの推測で学校林整備について検討していたが、精密な立体模型の作製により、地形の様子など外観から推測される様子とは異なる点などが手に取るように把握できるようになった。この結果、当初不可能と考えられた、学校林を回遊するような観察路の整備の可能性が見えてきた。

また、調査により、今ある山道や学校林辺縁部の植物の観察など現在の植生や昆虫、飛来する野鳥などの把握ができた。

林を構成する植物は1年や2年という短い期間では育成できない。このようなことから、学校林の方向性、育成していく樹種の選定などについてはより慎重に行わなければならないということが把握できた。

これらの成果から、まずは荒れた竹林の整備、以前にあった梅林の整備、学校林を回遊できる観察路の整備などを行っていくという、方向性を定めることができた。また、植物や動物などの調査も引き続き行っていく予定である。

■実践ポイント： 学校林の現状などを調査した結果、当初予定したよりより慎重な取り組みが必要であることがわかった。生徒による『学校林整備ボランティア』を募り、調査や作業を行ったがこの中で生徒が観察したことから生徒自身の興味関心に基づいた調査も行えた。このような点はねらいに沿ったところである。

しかし、このような貴重な自然がこんな身近に残っているということに関するプレゼンテーションは十分に行うことはできなかった。今後、これまでの取り組みで不十分であったことを引き続き取り組んでいきたいと考えている。

